

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浦崎 直光	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> 電気数学Ⅲでは、Webclasを活用し、演習問題ならびに解答例の提供を行い。 科学者の倫理(大学院科目)のコーディネータとして、担当教員と受講学生の橋渡しを行う。 			0.40	<ul style="list-style-type: none"> 前学期の電気数学Ⅲと後学期の電気応用工学においてWebclassを活用した演習問題の解答例ならびに講義資料の提供を行い、学生の利便性を図った。 科学者の倫理のコーディネータとして、講義の取り纏めに成功した。 		
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> 少なくとも1件の研究成果発表(学会発表、論文投稿)を行う。 外部資金として獲得した総務省「戦略的情報通信研究開発推進事業」を遂行する。 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> 学会発表2件を行った。 「戦略的情報通信研究開発推進事業」への取り組みが不十分であり、課題を残す結果となった。 		
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> 産官学関連の行事に積極的に参加する。 技術相談等の要求があった場合は適切に対応する。 電気学会ならびに電子情報通信学会の九州支部委員として学会活動をサポートする。 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄TLOによるシーズ調査に2件の研究テーマを提供した。 地域エネルギー活用に関するプロジェクトの外部評価委員を2件務めた。 沖縄-ハワイクリーンエネルギー協力推進事業で委員長を務めた。 電気・情報関係学会九州支部連合大会の次期大会副委員長として活動した。 		
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 就職担当:学生の就職活動をサポートする。 教育委員:学部・学科の教育活動の運用や改善に取り組む 社会連携委員:工学部後援会と学科の橋渡しを行う。 電気主任技術者事務担当:資格取得のサポートを行う。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> 就職担当の職務を遂行できた。 主に学部改組に向けた教育システムのルール作りに携わった。 工学部後援会からの支援を活用した資格補助や旅費補助の実務を行った。 電気主任技術者ならびに電気工事士に係る単位認定審査を行った。 		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岡田 竜弥	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	学生実験において、単なる手順の遂行でなくその場で考えながら進められるよう工夫するとともに、実験手順、考察をきちんとレポートにまとめられるよう指導する。また3年次指導教員として、年次別懇談会や履修指導、合宿研修などを通じて、進学や就職など将来の進路について具体的に考え行動を始めるよう指導する。			0.35	学生実験では、各課題毎に結果から何が読み取れ何が考察できるか学生自身が考えながら実験を進められるよう促すとともに、レポートについて指導した。3年次昼間主・夜間主合同の合宿研修を実施し、学生相互の親睦を深めるとともに、将来の進路について話す場を設けた。		
研究	0.35	学会で研究成果を発表するとともに、2本以上を目標に論文にまとめ投稿する。また科研費やJSTなどの外部資金獲得に向けて、積極的に応募する。			0.35	筆頭で1件の国際会議、1件の国内会議で発表し、共著で7+5件の発表を行った。また共著で3件の論文が掲載された。1件の外部資金に採択され、研究を推進した。		
社会 貢献	0.10	他の業務に支障のない範囲で、研究会への参画など積極的に行ない、研究成果を発信する。			0.10	学会や研究会の座長を引き受け、活発な議論ができるよう尽力した。		
管理 運営	0.20	3年次指導教員の連絡係として、また学科や学部の各委員会の委員として責任をもって業務をこなす。			0.20	3年次指導教員の連絡係として、年次別懇談会や研究室仮配属を調整し実施した。また、実験検討委員会や交通指導委員会などの委員として、委員会に参加し活動した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮城 加津也	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	現在、受け持っている①学部(学生実験:2年次と4年次)及び、②大学院講義に関し、これらの講義資料と、指導内容の充実化に努める。特に、②に関しては最新の研究動向を考慮した資料作成に努める。③研究室運営では、前年度から取り組んでいる研究室学生、全員(年1回以上)学会発表(国内・国際)必須を行うことで、研究への姿勢向上に努める。			0.20	今年度は、①～③について、全て目標を達成できた。①に関して学生の理解力を把握したうえで指導した。②に関しては、最新の論文報告を多用することで光伝送や、光デバイスの基礎から最新動向までを指導した。③に関しては、国内外学会発表を行い、また外部資金を活用した新分野への積極的な研究を行い、学術的に重要な結果を得ることができた。		
研究	0.40	前年度までに獲得した複数の外部資金より得られた研究設備の活用と、蓄積された研究実績を基に、学会誌への投稿に努める。また学内外の研究協力者との(農工)連携を強化した新たな研究テーマ促進に努め、外部資金獲得に向けた取り組みを強化する。			0.50	外部資金を活用した新分野への取り組みを行った。その結果、外部組織(産総研中部センター)との共同研究を行うことで、学術的に重要な研究結果を得ることができた。それを踏まえ、学術論文誌へ投稿の準備(中)を行うことができた。		
社会貢献	0.10	これまでに得られた研究成果をより、学内外との連携と研究協力者の充実化を目指す。			0.20	学外組織と連携することで、新規に委託研究費を頂くことができた。この資金を活用することで、学術的に重要な研究成果を得ることができた。		
管理運営	0.20	今年度から、(全て)新たな委員会への配属になったため、業務内容の早期習得を目指す。また機会を頂ければ、業務の効率化などの提言に努める。			0.10	今年度からの委員会へ積極的に活動を行った。その際、業務の効率化に向けて、業務へ取り組みを行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	金子 英治		所 属	工学部 電気電子工学科		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	一般講義については毎回の小テスト、宿題を課し、出席率および理解度の向上を図る。理解度向上のため本年度は希望に応じて追試を行い講義内容の理解を深めてもらうと共に、単位修得率の向上を図る。電力工学の教科書作りを始める。 金子研究室においては、就職活動、進学活動の支援を行い、年度末における進路未定者ゼロを目指す。奨学金、授業料免除申請について支援を行い獲得を実現する。学生の学会参加、特に海外での発表について各種支援する。大学院の学生はすべて海外での発表を行えるように支援する。		0.30	小テスト、毎回の宿題については担当した全講義で実施できた。意図していた出席率、理解度向上が図られた。教科書作りは電力工学Ⅰ、Ⅱ、回路理論Ⅲについて行った。学生からの希望のあった科目について追試を行った結果、しっかりとした復習をやったと見え、理解度向上が確認できた。就職、進学について研究室の学生は全員10月までに決定し、卒論、修論に集中できた。博士卒業生は琉大に就職できた。授業慮免除については申請者は獲得できた。大学院生は、八つの国際会議に18件投稿し、全員発表を行った。うち海外には五つの国際会議に6件の論文を投稿発表した。			
研究	0.30	昨年度実施した2件の共同研究(気中遮断器関連、真空遮断器関連)の継続を行い、更に新しい共同研究2件(サージ研究、真空放電研究)の獲得を目指す。また新分野の共同研究について検討を始める。パワーアカデミー特別推進研究について、共同研究先大学と相互訪問、討論、共同作業を行い初年度の成果をまとめ年度末の報告会を行う。 共同研究成果についてはジャーナル掲載、投稿2件以上、国際会議等での発表6件以上、研究会レベルについては10件以上の発表を行う。		0.30	共同研究については2件継続して実施した。加えて2件新規に共同研究を始めた。研究成果については計画値を大きく超える上記の件数の成果につながった。また、パワーアカデミー特別推進研究も獲得し本土の3大学と共同研究を推進した。本研究については新聞報道もされた。本土の大学からは学生さんに研究生として本学での実験に参加してもらい、研究成果につなげ、電気学会全国大会などで成果報告を行っている。共同研究の契約が手続きの時間がかかりすぎ研究開始に少なからず影響があるので、今年から継続契約(2か年連続での契約)の形をとり、早い対応を可能にした。			
社会 貢献	0.15	ICEE206(沖縄大会:7月)の現地実行委員長、ISDEIV(中国大会:9月)の国際運営委員会副委員長、GD2016(名古屋大会:9月)の現地実行委員会委員、ICEPE(来年予定)の国際運営委委員としてこれら四つの国際会議の運営を行う。電気学会調査専門委員会委員として電気学会調査活動を推進、運営する。電気学会技術委員会委員として開閉保護技術の深耕発展を図る。沖縄職業能力開発大学校における運営協議会に参加し議長を務める。電気学会、IEEE、AIPの査読委員として査読に貢献する。		0.15	ICEE、ISDEIV、GD、ICEPEについては運営、計画等について運営委員会、実行委員会などそれぞれの立場で貢献した。特に沖縄で開催したICEEは過去最大の参加者を得、成功裏に終えることができた。これについては本学の学生さんには発表に加えて大会運営にも様々加わってもらい、国際会議運営の経験を大いにしてもらった。論文査読に対しては従来のIEEE、AIPや電気学会の論文誌の査読に加え、国際会議の投稿論文の査読にも参加し、国際会議の運営を支えた。電気学会調査専門委員会、技術委員会活動も参加した。また、JEC規格役員会にも参加し、JECの規格策定に参加した。沖縄職業能力開発大学校の運営委員会にも2回議長として貢献した。来年度以降も続ける。			
管理 運営	0.25	学科長として学科の運営を行う。学科長所管の各種委員会に出席し、学科および学部の活力向上維持に努める。学科全構成員での意見交換会、検討会、勉強会、イベントの開催を行いコミュニケーションの醸成に努める。 全学委員会として、学生生活委員会、学生支援・指導委員会、情報公開・個人情報管理委員会に参加し、学生の大学生活の向上維持、および職員の情報保護・管理に貢献する。		0.25	学科長業務は滞りなく行った。教授懇談会をほぼ毎月1回行い教授間のコミュニケーション醸成に努めた。学科会議においては発言のしやすい運営に努めた。若干時間のかかる場面も多くなった感じはするが、学科構成員の意思疎通に対しては一定の効果があったものと考えた。新しいコースごとの会議についても適時行ってもらった。全学の委員会活動については積極的に参加した。特に学生生活委員会では学生の不幸事に関する説明を行い工学部の考えを説明した。学寮における日本人学生と留学生の間で起こった事案については顧問弁護士の支援を受けて関係者の納得のいく形に収束することができた。			
	0.00			0.00				
計	1.00			1.00				

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 光永	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I, 同II, 同サポートルーム, 量子力学II, 電気電子工学概論II, 夜間主コースにおける電子回路I, 同IIを担当し, JABEEの基準を満たす講義を行う。また, 大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し, 量子計算機のソフトウェアとハードウェアに関する講義を日本語及び英語にて行う。さらに学部昼間主コース2年次の指導教員として, 年次別懇談会, オフィスアワーなどを利用し, 学生の大学生活および履修指導を行う。また, 研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行う。			0.30	学部担当科目として昼間主コースにおける電子回路I, 同II, 同サポートルーム, 量子力学II, 電気電子工学概論II, 夜間主コースにおける電子回路I, 同IIを担当し, JABEEの基準を満たす講義を行った。またFrontiers of Engineeringの1回分(11/28)を担当し英語による講義を行った。さらに, 大学院担当科目として量子計算機工学特論を担当し, 量子計算機に関する講義を日本語及び英語にて行った。さらに学部昼間主コース2年次の指導教員として, 年次別懇談会, オフィスアワーなどを利用し, 学生の大学生活および履修指導を行った。また, 研究室配属の学部生および大学院生に対し進路・就職情報提供などの進路指導を行った。		
研究	0.40	大学院生および学部生と共に, 他大学とも連携して量子計算機の実現に向けたソフトウェア面およびハードウェア面の基礎的研究開発に努める。また, その成果をもとに国内外学会発表および学術論文など2件以上の投稿を目指す。			0.20	量子計算機の実現に向けたソフトウェア面およびハードウェア面の基礎的研究開発に加え, 脳模倣型計算機のハードウェア実現に向けた基礎的研究開発に努めた。それらに関する成果を国内研究会にて1件発表予定である。また, 研究論文1件を執筆中である。		
社会 貢献	0.15	当該大学の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」と連携・協力し, 電気電子工学分野の普及目的で, 地域の小学生高学年に対して同分野への興味を持ってもらうため, 公開講座として簡単な電子工作教室を1件企画運営する。			0.30	大学COC事業と連携・協力し, 地域の小学生高学年に対する電気電子工学分野への興味を持ってもらう目的で, 公開講座として簡単な電子工作教室を3件(国頭村8/7, 徳之島町(離島)8/21, 大宜味村10/23), 企画運営した。		
管理 運営	0.15	学部広報・図書委員会オブザーバーおよび学科広報委員会委員として委員会活動に積極的に参加し, 改組に伴う情報公開に努める。また, 学科JABEE委員会委員として委員会活動に積極的に参加し, 達成度評価ファイルの改善等の教育環境維持・管理体制のチェック・推進に努める。			0.20	学部広報・図書委員会オブザーバーおよび学科広報委員会委員として委員会活動に積極的に参加し, 改組に伴う情報公開として新WEBページ公開など行った。また, 学科JABEE委員会委員として委員会活動に積極的に参加し, 1年次学生用達成度評価ファイルを作成し, また既存達成度評価ファイルの改善を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		景山 弘	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	1年次対象の電気数学Ⅰ(昼間主)、電磁気学Ⅰ(昼間主および夜間主)、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当する予定である。昨年度と同様に、毎回の講義において小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮する。また、小テスト・演習を毎週返却する際に模範解答を示すことで、学生がその場で自己評価できるように配慮する。			0.40	1年次対象の電気数学Ⅰ(昼間主)、電磁気学Ⅰ(昼間主および夜間主)、3年次対象の電子デバイス材料工学を担当した。昨年度と同様に、毎回の講義において小テストを行うことにより、学生の理解度を把握するとともに、学生には前回までの内容を理解したうえで次の講義を受講させるように配慮した。また、小テスト・演習を毎週返却する際に模範解答を示すことで、学生がその場で自己評価できるように配慮した。さらに、定期テスト直前には、それまでのまとめの演習を行い、学生が効率よく復習できるように配慮した。		
研究	0.40	有機薄膜太陽電池の高性能化に関する研究を行う。研究成果は、論文あるいは学会発表の形で公表する。なお、少なくとも、1件以上の論文投稿あるいは学会発表を行うことを目標とする。			0.40	有機薄膜太陽電池の高性能化に関する研究を行った。研究成果は、国内学会(招待講演3件、一般講演3件)において発表した。また、科学研究費補助金(基盤C)に応募した。		
社会 貢献	0.10	学外委員会委員(1件)を担当する			0.10	学外委員会委員(1件)、および、電子情報通信学会 有機エレクトロニクス研究専門委員会委員を担当した(平成28年6月～現在)		
管理 運営	0.10	予算委員会、JABEE委員会、電子物性科目検討委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、施設・環境委員会を担当する。			0.10	予算委員会、JABEE委員会、電子物性科目検討委員会、電気数学関係科目検討委員会、電磁気学関係科目検討委員会、施設・環境委員会を担当し、学科の管理運営業務を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山本 健一	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト 比(予 定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト 比(実 績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学部講義として電気電子材料(昼夜間主, 計4単位)ならびに回路理論IV(昼夜間主, 計4単位)を担当する。シラバスに則った内容を提供するとともに, 科目ホームページを開設し教材ならびにQ&Aを受講生に公開し学習をサポートする。大学院講義(2単位)を担当し, 講義・議論する。卒業研究・セミナーの配属学生について卒業研究/セミナーにおける指導ならびに進路指導を行う。1年次指導教員として修学指導を担うと共に電気電子工学概論Iを分担担当する。また修士学生の研究指導を行う。		0.30	電気電子材料(昼夜, 4単位), 回路理論IV(昼夜, 4単位), 回路理論I(夜, 2単位)については, 科目ホームページ開設など予定どおり実施できた。予定外のFrontiers of Engineering(工学部共通, 2単位, URSEP)も担当し, 英語での講義提供と取りまとめを司った。大学院講義も予定通り実施できた。卒業研究, セミナーでは受講生全員が単位取得し, 就職内定も得た。1年次指導教員としての業務も問題なく実施した。修士学生は研究成果を学外発表できた。	
研究	0.30	面圧縮力が電磁鋼板の磁気損失に及ぼす効果について, 磁気測定と磁区観察を継続し磁化過程に関する研究を推進する。科研費を申請予定。		0.30	大学院生, 学部生と協力して磁気測定と磁区観察を実施し, 5件の学外発表(3月予定含む)を行った。本年は2件の学外研究資金の代表を務めた。各種予算申請の結果, 来年度1件の資金の内定を得た。	
社会 貢献	0.10	電気学会電力用磁性材料の高度活用技術委員, 日本磁気学会編集委員としての活動を行う。ICEE2016実行委員会委員として学会開催に携わる。		0.10	学会の所望の活動を行った。ICEE2016では実行委員ならびに運営に携わった。	
管理 運営	0.30	学科では計算機管理運用委員会, 科目検討委員会等に属し管理運営にあたる。工学部教授会はじめ各種会議に出席し各組織の運営に携わる。		0.30	各種委員会や会議に出席し, 当初の予定どおりの活動ができた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 学外公表に同意しない。 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山里 将朗	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	学部担当科目(電子物性工学Ⅰ, 量子力学Ⅰ, 電子デバイス工学Ⅰ, 回路理論Ⅰ)を担当し, JABEEの基準を満たす講義を行う。回路理論Ⅰでは, 演習課題を毎週返却し, 知識の定着を図る。大学院では, 電子物性工学特論を担当し, 英文テキストを用いて, 輪講形式で行う事で, 学生の英語能力並びに自主学習能力促進をはかる。また, 研究室配属学生に対して就職, 進学指導を行う。			0.25	学部講義において担当科目の講義を行った。講義資料を作成, 配付し, 学生の理解を深めるように努めた。また, 大学院では英語テキストによる講義を行ない, 研究室学生の進路指導を行った。		
研究	0.25	国際会議や原著論文を1件以上採択を目指す。実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.25	外部助成金1件ならびに研究紹介及び発表を3件行った。しかし, 原著論文として成果まとめきれておらず, 来期に論文として発表する必要がある。		
社会貢献	0.10	高校訪問やオープンキャンパス等を通して, 電気電子工学の社会における役割を紹介する。			0.25	オープンキャンパスで当学科の内容を紹介した。また, 沖縄高専, 内閣府とともに沖縄未来半導体研究会を発足させ, 研究会を4回開催した。これまでにのべ50機関以上, 100名あまりの参加者により, 沖縄での新規製造業進出について検討を行っている。		
管理運営	0.35	専攻主任として, 適切な専攻運営を行う。また, 安全委員会委員長, JABEE委員長, 回路理論関係科目検討委員会委員長, 電子物性関係科目検討委員, 将来計画委員として, 学科及び学部運営に関わる。			0.25	JABEE委員長として外部評価委員会を開催した。また, 安全委員会委員長として, 附属工場事故に対する改善策をとりまとめている。また各委員会活動を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		千住智信	所 属		工学部 電気電子工学科
職 名				教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	<p>前学期は、学部担当科目(前期:エネルギー変換工学、電気法規及び施設管理(昼間主コース及び夜間主コース)、後期:電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解を助ける。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生3名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究学生4名)を行う。</p> <p>研究室所属学生(博士前期課程3名)の就職指導と進学指導を綿密に行い、研究室学生の進学・就職支援を行う。また、研究室所属学生の進学に関してTOEFLの受験指導を行うと共に、進学に必要な受験勉強の指導を行う。</p>		0.30	<p>前学期は、学部担当科目(前期:エネルギー変換工学、電気法規及び施設管理(昼間主ならびに夜間主)、後期:電気機器Ⅱ(昼間主)、パワーエレクトロニクス(昼間主))を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、授業を担当する各科目でTAを活用し、学生の授業理解をうながした。大学院博士前期課程学生9名、博士後期課程学生3名の研究指導ならびに卒業研究の指導(卒業研究学生4名)を行った。国費留学生の博士の学位取得を指導し、学位を取得させた。</p> <p>研究室所属学生(博士前期課程3名)の就職指導と進学指導を綿密に行い、研究室学生の進学・就職支援を行った。学部学生は全員博士前期課程に進学し、博士前期課程の学生は全て希望会社へ就職させた。外国人留学生で今回博士前期課程を修了する学生も日本国内の日本企業へ就職させた。</p>
研究	0.20	<p>研究論文3編以上の採択を目指す。科学研究費補助金の採択を目指す。外部資金獲得のために、各種財団へ研究助成金の申請を行う。さらに、企業との共同(受託)研究を実施する。海外の大学の研究者と共同研究を進め、研究成果を発表するとともに、学術交流を図る。</p>		0.20	<p>研究論文5編を学術雑誌へ掲載した。国内外の国際会議で10件の研究成果を発表した。科学研究費補助金が採択された。外部資金獲得のために、企業との共同(受託)研究を実施した。今年度は2企業と共同研究を実施できた。オーストラリアのRMIT大学、ハワイ大学、カブール大学、エジプトのアスワン大学との共同研究を推進し、研究成果を発表した。また、カブール大学との部局間交流協定の申請を行った。</p>
社会貢献	0.20	<p>NEDOの技術カタライザーを務める。沖縄に賦在する天然ガス資源活用等に係る委員を務め、水溶性天然ガスの利活用法について提言する。那覇市の環境委員会委員を務め、那覇市の環境に関する提言を行う。国際会議であるICEMS2016の組織委員会委員を務める。また、電気学会、IEEE等の論文査読を行う。新学科への受験学生を増加させるための試みとして、オープンキャンパスにおいて中高生対象の物づくり教室を開催する。</p>		0.20	<p>NEDOの技術カタライザーを務め、ベンチャー企業の育成を行った。沖縄に賦在する天然ガス資源活用等に係る宮古島市の委員を務め、水溶性天然ガスの利活用法について委員会を開催した。那覇市の環境委員会委員を務め、那覇市の環境に関する提言を行った。国際会議の運営等に関してICEMS2016組織委員会委員を務めた。また、電気学会、IEEEの論文査読を行った。国際学術雑誌のSustainabilityのSection Boardを務め、さらにSpecial issueを担当した。IT津梁まつりにおいて出展し、ものづくりに関する啓蒙活動を行った。</p>
管理運営	0.30	<p>下記に示す学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与する。学科内では学部入学者選抜委員会委員長、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員を務める。工学部では、入試委員会委員、国際交流委員会委員、研究推進委員会委員、副学部長を務め、さらに、全学では総合情報処理センター長を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事する。</p> <p>学科:学部入学者選抜委員会委員、電磁エネルギー工学講座関連科目検討委員 工学部:入試委員会委員、情報委員会委員長、研究推進委員会委員、国際交流委員、副学部長 全学:総合情報処理センター長</p>		0.30	<p>学科内、学部内、学内各種委員会委員を務め大学組織の管理運営に寄与した。特に学科内では電磁エネルギー関係科目検討委員会委員、学部入学者選抜委員会委員長を務めた。工学部では、研究委員会委員、副学部長、情報委員会委員長、国際交流委員を務め、さらに、全学では総合情報処理センター長、IT戦略室副室長等を務め学内情報処理システムの安定運用と情報セキュリティを保持するための業務等に従事した。</p>
	0.00			0.00	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		曾根川 富博	所 属		工学部 電気電子工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	前期の4年電子システム工学実験, 3年電気電子システム工学実験I, 後期の3年電気電子システム工学実験IIでの、受講生の理解度を深めPCを利用した報告書作成方法の理解がえられるよう指導を行う。年次指導教員を担当している組については、学生の修学状況の把握をしっかり行い、除籍者がいないよう指導する。研究室配属学生について、進路に関する指導を密に行う。			0.40	学生から提出されたレポートについて、PCを使用した図表の作製方法の添削を行うことで、翌週のレポートのグラフや図表の完成度を上げることができた。卒業研究を担当している学生について、積極的に就職活動をおこなわせ、報告会、ゼミ等の日程調整を積極的に行った。		
研究	0.35	昨年度卒業研究で指導し、応用物理学会で発表した、低誘電率材料の作製について、論文としてまとめ、投稿を行う。			0.35	低誘電率材料の作製の元になる多孔質シリコンの作製の再現性に手間取り、論文の投稿はできなかった。試料作製前の孔の割合と作成後の誘電率との関係に、試料膨張の影響を考慮した結果良好な関係が見られたのでそれを元に来年度早期の投稿を目指し論文を作成している。		
社会 貢献	0.05	工学部後援会総会等、後援会主催行事に積極的に参加し貢献する			0.05	今年度工学部後援会の総会については、日程の都合がつかずに参加できなかった。しかし、卒業研究生に就職説明会への参加を勧めるなどの形で貢献ができた。		
管理 運営	0.20	工学部および学科の担当している各委員会に積極的に参加する。			0.20	工学部教授会および学科会議に不在等で都合のつかない時以外は積極的に出席ができた。各種委員会活動についても活動が行えた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		長田 康敬	所 属		工学部 電気電子工学科
職 名		教授			
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	<p>(1) 学部の講義:情報関連の講義「電子計算機Ⅰ」、「電子計算機Ⅱ」、「情報数学」、「情報理論」を担当し、この分野の新しい技術を紹介していくことに努める。</p> <p>(2) 上記の学部の講義のうち、「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆し、出版できるよう引き続き準備を進める。「情報数学入門」は共著で出版の準備中である。「情報理論」は森北出版と打ち合わせ中である。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成したので、さらに加筆して、講義の最初の所でこの分野の概論と基本的な技術の習得を目指す。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化し、充実したものとするため、手引書を執筆し、これに基づいて実践的な指導を行なう事を計画している。場合によっては、学科や研究科の枠を超えて改善に取り組む。</p>		0.25	<p>(1) 学部の講義:情報関連の講義「電子計算機Ⅰ」、「電子計算機Ⅱ」、「情報数学」および「情報理論」を担当した。関連の分野の新しい技術をいくつか紹介した。</p> <p>(2) これらの学部の講義のうち、「電子計算機Ⅰ」と「情報理論」のテキストを執筆し、出版の準備を行なった。「情報数学入門」も共著で出版の準備中である。「情報理論」は森北出版と打ち合わせを行い、いくつかの出版の条件をいただいた。</p> <p>(3) 博士前期の講義である「ディペンダブルシステム特論」(「Advanced Dependable Systems」)の英文の資料を作成した。講義の最初の所でこの分野の概論と基本的な技術を説明した。</p> <p>(4) 博士後期課程の講義および論文指導を強化し、充実したものとするため、手引書を執筆し、これに基づいて指導を行なった。</p>
研究	0.25	<p>(1) 複数の科研費のプロジェクトに参加し、推進していく計画である。プロジェクトは他学科および沖縄高専との共同研究となる。今年は独自の科研費の申請を行う予定である。</p> <p>(2) 科研費以外の研究資金を確保できるよう各種助成金に応募する予定である。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの開発、および実装を行なっていく。特に非同期システムや耐故障システムを設計し評価する。本年度は国際学会での発表と院生の論文投稿に力を入れていく計画である。</p> <p>(4) 3値論理素子の論文再投稿と、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を行なう計画である。</p>		0.25	<p>(1) 情報工学科との科研費のプロジェクトに参加し、推進した。沖縄高専と共同研究を行なった。</p> <p>(2) 科研費以外の研究資金を確保できた。</p> <p>(3) 多値論理とファジー論理を応用したデジタルシステムの研究・開発を行ない、研究論文にまとめた。非同期システム用のゲート素子を提案し、研究論文にまとめた。</p> <p>(4) 3値論理素子の論文再投稿と、B型およびC型の3値論理と非同期システムの理論的側面を扱った論文投稿を行なった。”</p>
社会貢献	0.15	<p>(1) センサー技術による環境関連設備の新しい製品の開発に着手し、地元ニーズに応える。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計するプロジェクトに参加し、地域の特性に沿った物づくりを行なう予定である。</p> <p>(3) ユーヴィックス社との紫外線応用に関する共同研究が始まる。</p>		0.15	<p>(1) センサー技術による環境関連設備の新しいIoT製品を回路構成した。このためのスマートフォンでの制御プログラムを開発した。</p> <p>(2) 蓄電装置とソーラーシステムを設計した。実際に家屋に設置し、運転を始めた。</p> <p>(3) ユーヴィックス社との紫外線応用に関する共同研究を終え、報告書を提出した。</p>
管理運営	0.20	<p>(1) 工学部の社会連携委員会委員および情報委員会委員として関連事項の役割を果たしていく予定である。</p> <p>(2) 学科の計算機システム管理運営委員会委員長として、役割を果たしていく予定である。</p>		0.20	<p>(1) 工学部の社会連携委員会委員および情報委員会委員として関連事項の活動を行なった。</p> <p>(2) 学科の計算機システム管理運営委員会委員長として、サーバーの管理運営を行なった。無線LANの調査・資料作成等を行なった。</p>
進路指導	0.15	<p>(1) 卒研生の進路指導を徹底し、それぞれの希望ができるだけ叶うよう指導をしていく。そのため、就職試験の指導や面接指導、および免許取得の指導を行なっていく。</p> <p>(2) 院生の就職指導を特別に行ない、研究所や大学等への就職情報を多く提供できるようにする。</p>		0.15	<p>(1) 卒研生の進路指導を行い、それぞれの希望の進学・指導をした。就職試験の指導や面接指導、および免許取得の指導を行なった。</p> <p>(2) 院生の就職指導を行なった。</p>
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長堂 勤	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	学部担当科目(デジタル信号処理、情報数学、電気数学II、システム工学II、卒業研究、セミナー)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。授業アンケートの結果に対応する。		0.40	学部担当科目については、ほぼJABEEの基準を満たす講義が行えたものとする。	
研究	0.45	研究論文の採択を目指す。国内外で研究発表を行う。今年度の目標として、査読付き論文1編以上、国際・国内学会発表1件以上とする。		0.45	今年度の研究業績として、レフリー付き学術論文(1件:共著)、国際学会論文(1件:共著)であり、ほぼ設定目標通りであると言える。	
社会貢献	0.10	沖縄職業能力開発大学校の非常勤講師を担当し、職業訓練を担うことで地元へ貢献する。またオープンキャンパスに積極的に取り組む。		0.10	前学期において沖縄職業能力開発大学校で講義(制御工学)を実施し、地域貢献を行った。またオープンキャンパスに参加し、地元高校生へ電気電子工学の有用性・重要性を説明した。	
管理運営	0.05	学科教育委員会、学部研究推進委員会などの委員会活動に積極的に参加する。		0.05	学科教育委員を担当し、定例の作業に加え、改組に伴う各種準備作業を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		長名 保範	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	本年度も学部の実験科目や大学院の講義科目の資料や内容の充実につとめ、さらによいものにしていきたい(学生実験受講者のレポート作成のためにウェブで公開している回路図エディタに関する資料を更新して新しいツールに対応するなど。)年次指導教員として担当している2年次学生や、研究室の学生の進路指導なども行う。		0.35	講義や学生実験の資料やツールのアップデートを行い、年次指導教員として担当している学生や研究室の学生の進路指導などを行った。	
研究	0.40	前年度までの科研費による研究期間が終了したのに引き続き、新たな研究課題で科研費を獲得することができたので、さらに発展させていきたい。昨年度までの科研費による研究成果をジャーナルに投稿し、昨年度採択されなかった科研費の新規課題(分担分)についても再度の申請を行う。		0.45	新たな研究課題で学生とともに研究を進め、国際会議への投稿を行った(査読中。)ジャーナルへ投稿する計画であった研究についても学生と進めた結果、当初予想していなかった進展があったので結果を整理して、来年度以降に投稿する予定である。また、JAXAからの受託研究を1件獲得した。	
社会 貢献	0.10	電子情報通信学会の研究専門委員会・デザインコンテスト委員会や、関連国際会議の委員会の活動を行う。		0.10	国内外でのFPGAデザインコンテストの運営や、関連国際会議の県内開催誘致活動などを行い、ICFPT 2018 の那覇開催を取り付けることができた。	
管理 運営	0.10	学部・学科の各委員会の活動を通じて大学の管理運営業務を行う。		0.10	オープンキャンパス委員や学部入学者選抜委員会として学部・学科の大学の管理運営業務を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		藤井 智史	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	学部担当科目についてはJABEEの基準を満たす講義を行う。大学院担当科目は、輪講形式で実施し学生の自主的学習を促すようにする。 2年次担当教員として、担当学生に履修指導・進路指導を行う。研究室4年次学生に対して、進路相談、推薦状作成等に対応し、大学院につながる研究指導を行う。大学院博士前期課程学生に対して、研究指導に加え、就職活動等のサポートを行う。		0.35	学部担当科目(電気電子計測工学Ⅰ、通信工学Ⅰ)についてJABEE基準を満たす講義を行った。大学院担当科目(信号処理システム特論)は輪講形式にて実施するとともに毎週課題を出して自主学習を促した。2年次夜間主コース担当教員として11名の学生を担当し履修指導を行った。研究室4年次学生および大学院博士前期課程学生の進路指導により就職希望者は全員早期に就職先が内定した。また、博士後期課程に1名進学することになった。	
研究	0.45	研究分担者として参加している科研費2件を活用して研究を進め、今年度中ならびに次年度以降の外部資金獲得に向けて成果発出する。 論文1件、国際会議3件、国内口頭発表5件を目標とする。		0.45	継続の科研費2件の研究分担者、共同研究2件に加え、新たに共同研究1件、総務省戦略的情報通信研究開発事業(SCOPE)1件を獲得した。近距離レーダの開発、遠距離レーダの方位分解能向上、宮崎での実地観測、津波観測の研究を進め、研究成果として論文1件、国際会議3件、国内口頭発表12件を発出した。新聞紙上に研究成果が2件掲載された。九州大学応用力学研究所研究集会の代表者として研究集会を主催した。 次年度外部資金公募には、科研費基盤B2件、SCOPE 1件、中部電力 1件申請中。	
社会 貢献	0.10	学外委員会の評価委員の職務を遂行する。 国際会議のローカルアレンジ等を行い開催に向けて貢献する。		0.10	学外委員会(大学評価、研究資金)の専門評価委員4件を受任しそれぞれ適正に評価を行った。 アンテナ電波伝搬関係の国際会議1件のローカルアレンジに参加し開催に貢献した。一般参加200名規模の津波モニタリング技術シンポジウムを開催した。	
管理 運営	0.10	学科内および学部内、全学委員会の委員としての職務遂行する。 総合知能工学専攻の専攻主任の任務を遂行する。		0.10	学科実験検討委員会委員長として学生実験が円滑に実施されるようにの職務を遂行した。 総合知能工学専攻の専攻主任として入試や審査、判定の調整業務等の任務を遂行した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		半場 滋	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.45	(1)電気数学IV(昼間主コース)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。不可の学生が2割未満となることを目標とする。(2)非線形制御特論(大学院)の講義資料を改訂し、講義内容の充実をはかる。(3)エンジニアリングデザイン講義(昼・夜間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。(4)システム工学I(昼間主および夜間主)において、学生に合わせた講義資料を準備し、学生の理解度に注意しつつ講義を進める。(5)卒研生および大学院生の研究指導では、学生の自主性を重視した指導をおこなう。		0.45	(1)電気数学IVの講義資料を改訂し、学生に合わせた講義をおこなった。受講者82名に対し不可は9名で、単位修得率89%であった。(2)非線形制御特論において、特別プログラムの受講生に配慮し、英文の講義資料を用いて講義をおこなった。受講者は16名で全員単位を修得し、単位修得率は100%であった。(3)エンジニアリングデザイン講義資料を改訂し、学生に合わせた講義をおこなった。(4)システム工学I(選択)の講義資料を新規に作成し、学生に合わせた講義をおこなった。昼間主コースの講義(前学期)では受講生36名のうち不可が1名で、単位修得率は97%であった。夜間主コースの講義(後学期)では受講生10名全員が単位を修得し、単位修得率は100%であった。(5)卒業研究および大学院生の研究では、学生の自主学習を重視し、学生に自分で論文検索をした上で研究テーマを決めさせる指導をおこなった。また、適切に進路指導をおこなった。進路指導の結果は、大学院生は就職、卒研生3名のうち1名は進学、1名が就職となった(1名は公務員試験受験の準備中)。	
研究	0.40	(1)非線形制御理論に関する研究を進め、年度内に1本以上論文を投稿する。(2)新プロジェクトの準備を進め、科研費に基盤研究Cあるいは萌芽研究として応募する。(3)査読者として、投稿論文の適切な査読をおこなう。		0.40	(1)非線形制御理論に関する研究を進め、結果として論文が新規に2本採択された。掲載誌はいずれもAutomatica(分野トップ誌のひとつで I/F 3.635) (doi: 10.1016/j.automatica.2016.09.046 ; doi: 10.1016/j.automatica.2016.08.005) (2)Automatica4件, Asian Journal of Control 2件, 合計6件の査読をおこなった。	
社会 貢献	0.05	(1)講義資料や出版済み論文などを、著作権上問題がない限りにおいて、適宜ホームページにて公開する。(2)卒業研究や博士前期課程の研究に関する情報をホームページで公開する。		0.05	(1)新規に作成したシステム工学Iの講義資料をWebページで公開した。(2)昨年度の卒業論文および修士論文の題目や関連動画をWebページで公開した。(3)2017年1月より計測自動制御学会九州支部事業幹事・顧問・沖縄地区委員長	
管理 運営	0.10	工学部代議員、付属図書館運営委員会委員、IT戦略室員、実験検討委員会委員、学部入試委員会委員として適切な活動をおこなう。		0.10	工学部代議員、付属図書館運営委員会委員、IT戦略室員、実験検討委員会委員、学部入試委員会委員として、これらの会議にすべて出席した。特に、付属図書館学術情報基盤資料選定委員会の工学部委員として、工学系の学術雑誌の確保に尽力した。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		米須 章		所 属	工学部 電気電子工学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	電磁気学Ⅱ、電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気工学概論、電気数学Ⅳを担当し、社会の要求を満たす水準の講義を行う。また、講義中に学生への質問などを行うことにより、学生が積極的に講義に取り組めるよう工夫する。研究室に配属された学生に対して就職指導および進学指導を行い、全員が希望の進路へ進めるよう支援・指導を行う。			0.40	予定通り、電磁気学Ⅱ、電磁気学Ⅲ、電気電子計測工学Ⅰ、電気工学概論、電気数学Ⅳを担当した。各講義では、毎回、小テストや講義中の学生への質問等を行い、学生が講義に積極的に取り組めるように工夫した。これらの結果、学生によるアンケートでも評価は高かった。また、研究室に配属された卒研4人に対し、進路について指導を行った。結果、それぞれ就職・進学が決定した(就職3人、進学1人)。以上より、目標を達成することができた。		
研究	0.25	プラズマ滅菌に関する研究を進め、成果を学術論文へ1件、国際会議などに2件以上投稿する。また、企業と共同研究を行い、外部資金の獲得を目指す。科研費の分担者として九州大学との共同研究を進める。			0.25	3件の国際会議(海外1、国内2)、1件の国内研究会に参加し、プラズマ医療について発表を行った。その他、院生が2件の国際会議、2件の国内研究会で発表を行った。サラヤ株式会社との共同研究を行い、外部資金を獲得した。更に科研費の分担者として九州大学と共同で研究を進めた。その成果をへPlasma Medicineへ投稿した。以上より、目標を達成することが出来た。		
社会 貢献	0.15	継続中の企業との共同研究を進め、プラズマ滅菌装置の実用化を目指す。			0.15	サラヤ株式会社と共同研究を行い、プラズマ滅菌装置の開発をすすめた。本装置は年度内に販売されることになった。以上より目標を達成することができた。		
管理 運営	0.20	電磁気学科目検討委員会委員長、電磁数学科目検討委員会委員、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員、教育委員会委員、安全委員会委員として積極的に活動する。			0.20	予定通り、電磁気学科目検討委員会委員長、電気数学科目検討委員会委員、電磁エネルギー関係科目検討委員会委員、教育委員会委員、安全委員会委員として積極的に活動した。以上より、目標を達成することができた。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		野口 隆	所 属	工学部 電気電子工学科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	学部、院担当科目で、しっかり理解させ、興味をしめすよう努めて講義する。(地域)ビジネス化を意識した講義(外部からの招聘なども含めて)、外国語での(UrSEPなど)の講義を積極的に行う。必要に応じGp. 討議を入れる。院学生には、英語発表での指導を行う。科学者の倫理(必須化)に貢献。修士(3名)、博士学位論文(9月修了1名)の指導に努める。		0.25	美ら島(地域ビジネス促進関連)教育サポート予算が確保でき、関連する技術内容(LED)で県内講師を招き、大学院生に聴講させた。科学者の倫理(講義)に貢献した。修士修了生に対し、日本人には国際化を図るべく英語での発表を指導し、外国人留学生には日本に適應すべく日本語で指導した。社会人博士候補を、論文指導し学位授与した。	
研究	0.30	地域特性を生かした省資源でクリーンな半導体の研究を(太陽電池、光センサなど)を推進。国際会議発表(5件以上)、実験結果をもとにオリジナルな内容で正規論文3件以上。産学、学学、海外共同研を推進(トランジスタ関連など)。(部局間交流) 外部資金(研究費)の獲得し(2つ以上の企業)、工学部の研究推進にも貢献する。		0.30	外部資金を獲得し(共同研究、高財団、寄付金)、学内研究補も含め、十分な研究予算を確保して、先端実験研究を推進した。正規論文4件、国際会議発表(10件うち招待1件)他特許登録1件。工学部では、研究推進委員として貢献。技術的には、(これまで困難であった)フレキシブルなプラスチックシート上に結晶化Si薄膜トランジスタを実現し、特性を示した。またガラス上にInSb膜を結晶化させ、世界最高の電子移動度を達成した。	
社会 貢献	0.25	国際会議(AMFPD、IDW、IMID、AWAD)の委員、応用物理学会委員。論文委員、査読(J. of SID、IEICE他)などに貢献する。国際的な研究、教育交流に貢献する。(韓国他) 教員免許審査、講義で貢献する。工学部運営を通して貢献。社会貢献につながる教員免許講習、展示会や県のEVENT、出前講座等にも機会を見つけて参加。		0.20	4つの国際会議委員として貢献。国内学会(応物)では特別にテーマを絞りシンポジウムを企画した。国際交流では、韓国湖西大と部局間から大学間としての締結をした。(2回交流会)、フランスのレンヌ大と部局間交流締結し、レンヌ大教授を招待しセミナー開催(韓国で3者で交流会開催開催)。教員免許講習に貢献。ナノテク展示会に本学代表として出展した。	
管理 運営	0.25	工学部副学部長としての運営に貢献する。特に、海外研究交流、教育研究推進で貢献する。(海外交流委員(学部内での交流委員会開催)、日韓交流、工学部での海外研究者招聘セミナー開催、外国人留学生プログラム推進など)。上記と関連する(重複)るが、国際会議の委員、論文委員、査読などに貢献する。部局間交流締結推進(本年度は、湖西大学との部局間交流を大学間の協定に改訂する)。		0.25	工学部副学部長として、学部内の国際交流委員会を開き、活動を活性化させるべく推進した。留学生の面接では、韓国(朝鮮)語、仏語で質問して貢献した。岸本(エヌテック)奨学金、短期留学を促進した(学部で3名)。研究室にも2名の学部留学生を受け入れた。外国語プログラム、JAICAなどのプロジェクト受け入れをサポート。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		